

ある町の歴史

加藤 佳奈子

中国の今年の元旦は2月10日でしたが、その正月気分も抜けない2月の中旬から、同じく埼玉県からきて勉強している後藤さんと一緒に山西省の南の都市、运城へ旅行に行きました。运城は山西省南端の町です。太原からは大型バスで高速道路を走っても5時間以上かかりました。运城はそれほど規模の大きな町ではありませんし太原ほど発展もしていませんが、歴史は古く、中国伝説上最古の王朝である夏王朝も运城を含む一帯に成立されたという説があります。たしかに中国古代王朝の都がおかれた西安と洛陽の中間に位置し、塩湖もあるために重要な中継地だったであろうということは容易に想像がつかます(ちなみに运城から西安、洛陽まではそれぞれ大型バスで高速道路に乗って3時間ほどです)。

この运城になにがあるのか、というとまず真っ先に挙げられるのが関帝廟です。関帝廟とは三国時代に活躍した武将、関羽を奉った廟のことです。死後聖人として神格化された関羽は現在商売の神様として人々に親しまれているため、中国各地、また日本でも、横浜や神戸などに関帝廟があるようです。

そんな関帝廟ですが、実は関羽がこの地出身のため、中国でも最大規模の関帝廟がここ运城にあります。関帝廟へは町の中心からバスに乗り30分ほどで到着します。行ってみての感想はとにかく「大きい」、この一言に尽きます。まるで北京の故宮のようでした。いまだに改築を重ねていて、敷地内に建設中の体育館サイズの建物が2棟ありました。日本では社寺というと、古ければ古いほど歴史の重みがあり良しとされる風潮があると思いますが、中国では新しければ新しいほど手入れがされていて良いと考えるようで、新しい建物を積極的に建てるんだそうです。本尊などは古いもので、とても重厚で荘厳な造りでした。

运城には関帝廟の他にも見るべき場所がいくつもあったのですが、時間の関係ですべての名所を回ることができず、とにかく面白そうなところを、ということで関帝廟の次に李家大院という場所を訪れました。ここは明代から清代にかけて金融界で大きな力を持っていた山西商人の頂点ともいえる李家の私邸跡地です。現在は政府の管理下にあり住人はいません。李家の人々は文化大革命後、中国、また海外のあちこちに散らばっていき軌跡をたどることは難しいようですが、ちょうど2013年にこの李家を舞台にしたテレビドラマが放送されるとのことで、李家の栄枯盛衰の歴史を詳しく知ることができそうです。さて、この個人邸宅もただただ大きく、2時間かけてもすべてを見つくることはできずに時間の都合もあり途中で切りあげて出口に向かいました。ちなみに李家に代表される山西商人達が地元の英雄である関羽を崇拝したことから関羽の商業の神としての神格化が始まったといわれているようです。

そして翌日には町の中心からそう遠くない塩湖にも行ってみました。この場所も运城を訪れたら欠くことのできないスポットです。関羽がこの塩湖の塩を密売して財を成したという伝説が残っているほど、町の歴史に深く関係しているところです。塩湖といっても見た目は普通の大きな湖でしたが、町中の雑沓からは想像がつかないほど荒涼としていたのが印象的です。ここの湖に入るとヨルダンにある死海のように人が浮くので地元では「中国の死海」と呼んでいるようです。道の脇にこの塩湖の神を奉った寺があり、日本の氏神信仰的なものが中国にもあるんだらうと思います。このような町のあり方は歴史のある地域ならでは、とても興味深かったです。

また伝統的な家屋建築スタイルである四合院づくりの家を运城でいくつも見かけました。この四合院は農村や下町に残っていることが多いようですが、口の字型に壁を作り、一面に門扉、残りの三面に沿って家屋を建てるという様式です。ひとつの家屋の中を見せてもらったのですが、中庭を囲むように棟を建てて庭で家庭菜園をおこなっていました。太原の市街地では集合住宅が主流でこのような一軒屋、ましてや個人で庭を持っている家はほとんどありません。中国の発展のスピードはすさまじく、都市での生活はより新しく、より便利に、ということを考えがちですが、このような素朴な生活もこの国にはまだまだ残っているようです。

运城は太原から訪れるには少し遠いところにありますが、歴史の詰まった町で、山西省に来た際にはぜひ行っていただきたい場所です。（ちなみに美人で名高い楊貴妃もこの地の一族の出だということです。）

実はこの运城の後、西安を訪れたのですが、その旅については今回書くスペースがないのでまた機会があるときにでも触れたいと思います。



関帝廟入り口。

この写真からは想像もできないくらい大きな廟です。

門すら大きすぎて写真に収まりませんでした。



李家大院の中の四合院。
内側から門扉を向いて撮った写真。
このような四合院が道に沿ってずっと並んでいます。



田舎の四合院。このお宅は一般的な四合院よりさらに古いようで、奥に見える家屋は山肌や崖に洞窟を掘ってそこに部屋をつくるという「窯洞」と呼ばれる乾燥地帯で以前に見られたスタイルで作られていました。